



葡萄の木

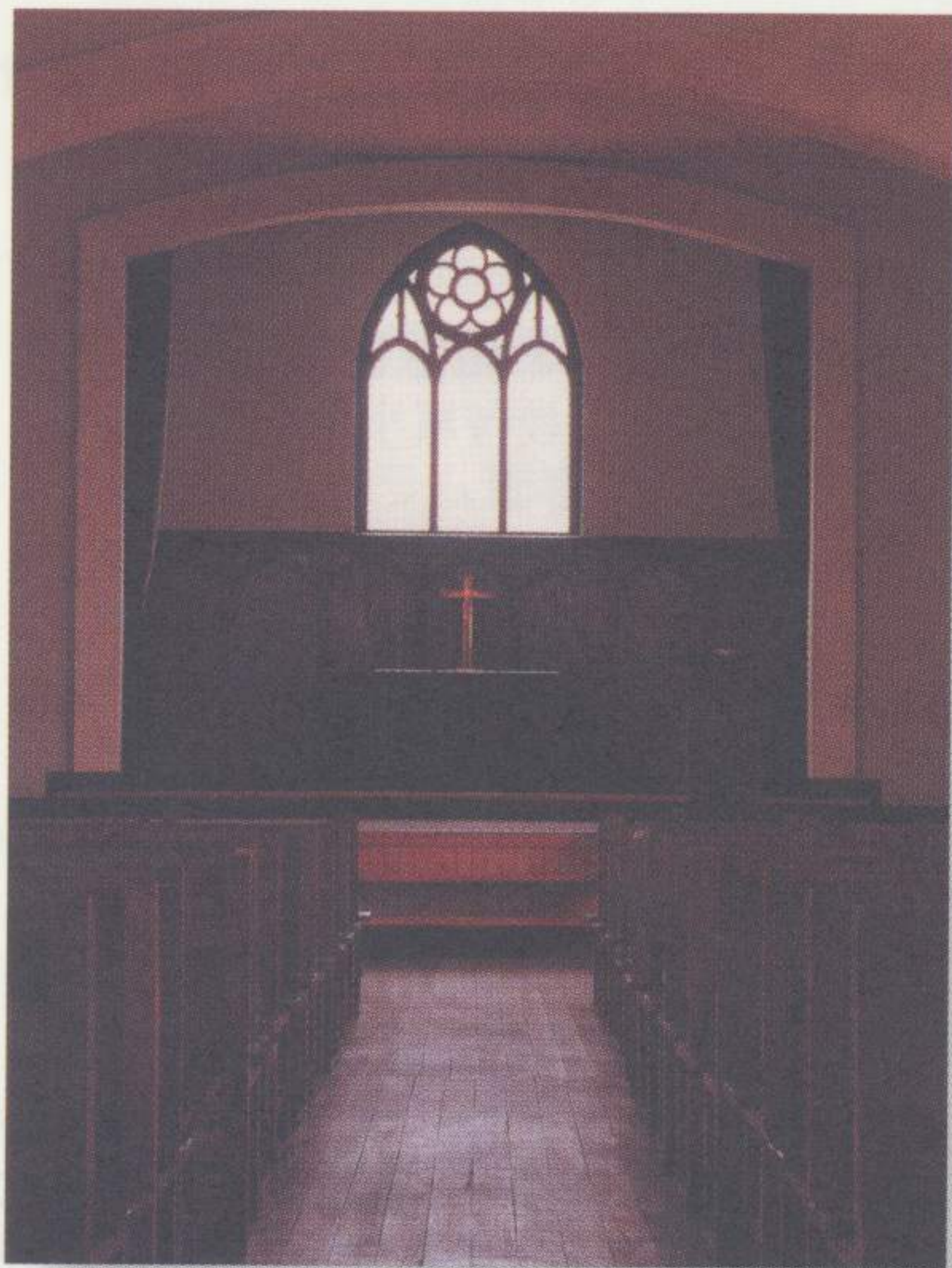
社団法人 プール学院同窓会のあゆみ

目 次

| | |
|-----------------------------|----|
| はじめに | |
| 同窓会年表 | 1 |
| 会館 オープンハウスデー活動報告 | 7 |
| 社団法人 プール学院同窓会とは 現在の同窓会活動 | 13 |
| 社団法人 プール学院同窓会のしくみ | 14 |
| 同窓会会員 都道府県・海外在住者数 | 15 |
| プール学院 校歌 | |
| 編集後記 | |

わたしはぶどうの木
あなたがたはその枝である。

(ヨハネによる福音書 15:5)



はじめに

120年の時を経て同じ学舎で播かれた種は、
世代を越え、国境を越え、美しく開花し
豊かな実を結んでいる。

同窓会は母校と共に歩んだプール精神の生きた証を
21世紀へと更に発展することを願いつつ
年表と現在の活動をたどりました。

同窓会年表

— 創立120周年を迎える母校の発展の歴史とともに —

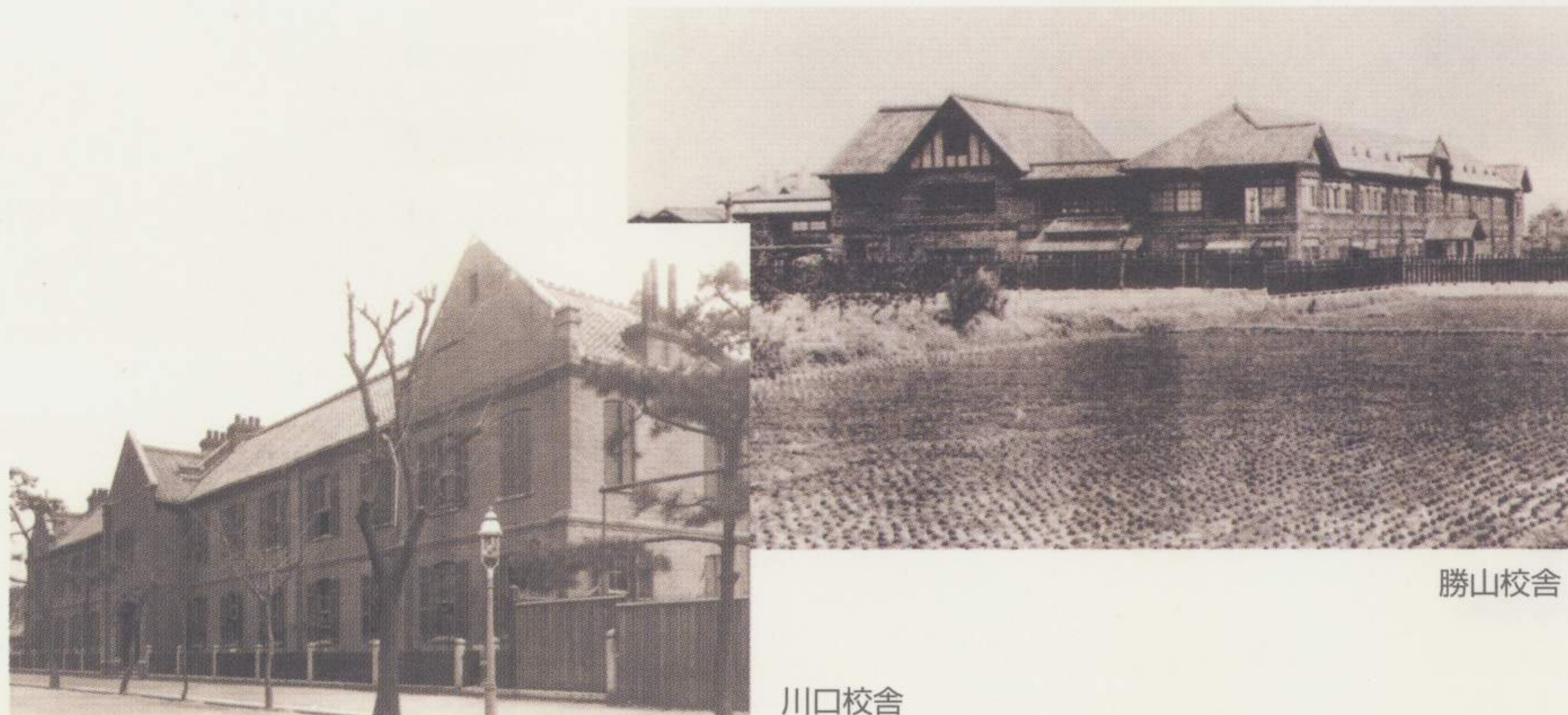
| 西暦(年号) | 事項 |
|-------------|---|
| 1879 (明治12) | 6. 2 英国国教会の宣教組織のひとつ、東洋女子教育協会(F.E.S.)のミスM.J.オクスラドが大坂川口居留地4番に永生学校を創立 |
| 1883 (明治16) | 2. 12 英国聖公会宣教協会(C.M.S.) A.W.プール主教が在日本C.M.S.初代主教として来日 F.E.S.のミスE. B. ボールトンも同行 |
| 1884 (明治17) | 10. ミスM.J.オクスラド帰英、ミスE.B.ボールトン校長になる A.W.プール主教の臨席するC.M.S.の日本会議において新校舎の必要が勧告される |
| 1886 (明治19) | A.W.プール主教を記念してプール女学校と命名 |
| 1890 (明治23) | 3. 10 川口居留地12番に新校舎が完成し、永生学校から普溜(プール)女学校に校名変更 C.M.S.宣教師ミスK.トリストラムが校長となり開校 |
| 1899 (明治32) | 私立プール女学校・私立プール女学校附属小学校が大坂府より認可。条約改正に伴い、居留地が廃止され、西区に編入 |
| 1905 (明治38) | 1. K.トリストラム校長を会長として、「プール女学校同窓会会則」を定め、「同窓会会報」を発行し、活動が始まる(明確な記述は不明) 3. 私立プール女学校附属小学校廃止 |
| 1909 (明治42) | 4. 文部省指定高等女学校となる |
| 1917 (大正6) | 12. 大阪府東成郡天王寺村(現 生野区勝山)に川口より移転 |
| 1920 (大正9) | 11. 23 第一回バザー開催。10年計画で五万円の基本金募金のための実行運動をスタートする |
| 1921 (大正10) | 10. 1 基本金募金の目的で「音楽大演奏会」を中之島中央公会堂で開催 |
| 1923 (大正12) | 4. 女学校(高等女学校)卒業の資格者対象三年課程の英文科を設置 9. 18 関東大震災で大坂に避難した人のために「慰問袋」426個を婦人矯風会に託し寄贈 11. 23 関東大震災の援助物資として、「布団」を70枚製作。朝日新聞社を通じて災害地へ送る |
| 1924 (大正13) | 10. 基本金募金から南河内郡矢田村(現 東住吉区矢田)に土地1,167坪を購入 |
| 1925 (大正14) | 5. 21 創立35周年記念祝賀式及びK.トリストラム校長在職35年記念式 |
| 1927 (昭和2) | 3. 経済恐慌がおこり、取引のあった第十五銀行が支払い停止になり、活動を控える 「會誌」発行も延期 4. K.トリストラム校長は退職し「名誉校長」となる。小泉秀 校長就任 |
| 1928 (昭和3) | 4. 「社団法人プール女学校同窓会」設立認可 K.トリストラム名誉校長を理事長とし、理事10名、評議員30名、監事3名を選任 小泉秀校長は総務理事として参加 |
| 1929 (昭和4) | プール高等女学校設置認可(修了年限五年) プール女学校は廃校し、英文科は第四回卒業を以て廃止 12. 4 寄宿舍の一部を改装して礼拝堂とし、「清心館」と名付ける |
| 1930 (昭和5) | 4. 本科卒業生の志願者に「補習科(講習科)」(1カ年修了)設置 12. 6 K.トリストラム理事長来朝四十周年記念祝賀会を中之島中央公会堂で開催 |



プール女学校
袴の帯につけた校章



体育競技優勝章



勝山校舎

川口校舎



K.トリストラム理事長

| 西暦(年号) | 事項 |
|------------|---|
| 1931(昭和6) | 1. 6 K.トリストラム理事長「藍綬褒章」授章 6. 6 結核患者の療養施設ガーデンホーム(東京都中野区)内に「ミス・トリストラム邸」建設落成式並びに贈呈式を行う(23回生 佐野幸、湯浅やなを中心とした有志による起工) |
| 1932(昭和7) | 12. 豊藤篤朗 校長就任 |
| 1933(昭和8) | 10.18 「創立記念日」を10月18日に制定 創立記念園遊会(ガーデンパーティー)を校友会と同窓会主催で開催 |
| 1934(昭和9) | 6. 29 財団法人プール高等女学校設立認可 7. 20 「母校増築助成資金募集」を始める。五カ年継続で、毎年創立記念日に「感謝助成金」として寄付各学年、学級に募金係を委嘱 9. 21 室戸台風で本館校舎の東側が倒壊し、生徒17名殉難。校長以下職員生徒43名重軽傷を負う 10. 21 殉難生徒記念追悼式を大手前国民会館で行う 11. 先に発表した「母校増築助成資金募集」は暫く延期し、「復興建築後援募金」活動を始める |
| 1935(昭和10) | 2. 9 復興建築後援募金のための音楽会「原智恵子嬢ピアノ独奏会」を朝日会館で開催 7. 12 復興建築後援募金のための映画会を朝日会館で開催。東京支部も九段会館で開催 9. 21 「室戸台風殉難生徒記念碑」除幕式(以後追悼式を毎年行う) |
| 1936(昭和11) | 1. 26 K.トリストラム理事長(名誉校長)帰朝歓迎晩餐会を大阪商船ホールで開催 3. 21 復興建築第一期工事(鉄筋コンクリート3階建校舎)竣工 11. 16 新清心館落成奉獻式 |
| 1937(昭和12) | 9. 24 復興建築後援募金及び国防献金募集の映画会を朝日会館で昼夜二回上映 |
| 1938(昭和13) | 2. 28 復興建築第二期工事(中庭つき箱型校舎)竣工 4. 本校卒業後、家庭に入る者対象「講習科」開設(1カ年修了) 11. 2 K.トリストラム同窓会理事長(名誉校長)英国に最終帰国 |
| 1939(昭和14) | 1. 校舎の一室に同窓会室を設置。「同窓会集会室使用規定」により学校、同窓会の使用とする 4. 「同窓会奨学金規定」を設け、生徒対象に奨学金の貸与で援助 6. 3 同窓生家族親睦会を開き映画を上映(体育館) |
| 1940(昭和15) | 1. 27 小橋カツエ(12回)理事長就任 10. 18 創立五十周年記念感謝礼拝式 10. 19 財団法人聖泉高等女学校と校名変更「社団法人聖泉高等女学校同窓会」となる |
| 1941(昭和16) | 3. 15 K.トリストラム名誉校長(前同窓会理事長)胸像建立除幕式 |
| 1942(昭和17) | 11. 7 豊藤篤朗校長逝去 |
| 1943(昭和18) | 5. 田中良一校長就任 11. 18 同窓生女子挺身隊が結成 |
| 1945(昭和20) | 3. 五年生(54回)卒業と共に四年生(55回)も繰り上げ卒業 6. 7 大阪北部大空襲で敷島紡績城北工場に学徒勤労員中の教員1名、四年生6名が殉難 |
| 1946(昭和21) | 3. 臨時措置令により四年生(56回)一部卒業 6. 10 河辺順(26回、旧職)理事長就任 22 大阪音楽学校在学の本校卒業生による音楽会(研究発表会)開催 |



聖泉高等女学校校章



小橋カツエ理事長



河辺順理事長



ガーデンホーム内の「ミス・トリストラム邸」にて



室戸台風で本館校舎倒壊



国民会館で行われた追悼式

西暦(年号)

事 項

1947 (昭和22)

- 3. 五年生 (56回) 卒業
- 4. 財団法人プール学院に変更
新学校制度によりプール学院中学校発足



中学校・高等学校校章

1948 (昭和23)

- 4. プール学院高等学校発足
- 4. 社団法人プール学院同窓会に名称変更
- 8. 24 K.トリストラム名誉校長が英国で逝去
- 10. 18 故K.トリストラム名誉校長の記念式を行い、在校生に対して「トリストラム先生を語る会」を開催

1949 (昭和24)

- 2. 15 トリストラム館 (同窓会館) を建設するため校舎北側の土地157.08坪を購入
- 3. 聖泉高等女学校に入学し、五年生は英文・家政・技芸のクラスに分かれ卒業
(高等女学校令による卒業生は完了)
- 4. 東京支部会再結成 支部長: 佐野幸 (23回)
- 5. 5 トリストラム館 (同窓会館) 建設資金募集のためバザー・園遊会を開催
- 6. 葉書通信「プールだより」第一号を出す (現在に至る)
- 8. 23 東京支部は「故トリストラム先生一周年記念礼拝式」を渋谷パウロ教会で行う
- 12. 23 トリストラム館 (同窓会館) 落成式

1950 (昭和25)

- 4. プール学院短期大学 英文科開学。E.M.フォス短期大学学長就任

1951 (昭和26)

- 4. 財団法人組織から学校法人組織に変更。学校法人プール学院中学校・高等学校・短期大学となる
- 6. 6 「トリストラム館 (同窓会館) 使用規定」を定める。宿泊も可能となる

1952 (昭和27)

- 4. E.M.フォス学長帰英のためA.S.ウィリアムスが学長代理
- 5. 短期大学・卒業生・在校生の会「ミツパ会」発足
- 12. 17 同窓会主催クリスマス祝会の通知を大阪朝日、毎日新聞に掲載
- . 22 クリスマス祝会・親睦会をトリストラム館で開催

1953 (昭和28)

- 8. 20 トリストラム館で「子供の園」と名付けて保育を始める
鳥居なつ (26回) が主任保母としてあたる

1954 (昭和29)

- 4. E.M.フォス帰任。学長職に就く
- 10. 18 学院創立75周年
記念芸能祭を毎日会館で開催。オペラ「ヘンゼルとグレーテル」を昼夜2回公演する
「創立七十五周年記念誌」発行
同窓会主催「恩師を囲む会」開催
各地域で支部活動が盛んになる。東京・京都・広島・岩国・北九州・大阪 (阿倍野、東住吉、西成、堺、吹田)・兵庫 (神戸、尼崎、阪急宝塚沿線)

1956 (昭和31)

- 5. 19 清心館増築後援募金を会員に呼びかける
- 9. 清心館を南側に拡張増築する
- 10. 3 清心館増築後援募金の音楽会を清心館で開催

1958 (昭和33)

- 6. 矢田の土地は農地改革により没収されていて意義申し立ての結果立ち退きを完了
矢田の土地が正式に同窓会に戻る

1959 (昭和34)

- 10. 17 学院創立80周年
記念誌「POOLE GAKUIN 80th」発行
同窓会記念礼拝を清心館で開催。学院のバザーに参加

1960 (昭和35)

- 9. 9 同窓生の寄付により、グランドピアノを清心館に設置



生徒自治会
学級委員バッチ
中学 (えんじ)
高校 (みどり)



フォス学長、バイカー先生を囲んでプール女学校英文科卒業生の同窓会



創立75周年記念芸能祭
音楽劇「ヘンゼルとグレーテル」

西暦(年号)

事項

1962 (昭和37)

- 1. 「子供の園」の二階を同窓会が使用。事務取り扱いも週1回常勤する
- 3. 同窓会総会は春分の日から5月第2土曜日に変更
- 6. 4 総会での新入会員歓迎式は卒業式後行うことに変更。記念品(証書筒、同窓会バッヂ)進呈
「同窓会慶弔規定」定める

1963 (昭和38)

- 9. 1 後藤恒吉中高校長就任

1964 (昭和39)

- 3. 20 ミツパ会会員宛に葉書通信「ミツパだより」第1号を出す
- 7. 9 矢田の土地に幼稚園設立を決定し、手続きを始める
- 10. 19 学院創立85周年
殉難碑前で「逝去者記念式」を同窓会主催で挙行
- 12. 5 「プール便り」第26号「祝 創立八十五周年」発行



同窓会バッヂ

1966 (昭和41)

- 4. 1 「子供の園」を閉園し、東住吉区矢田に「学校法人トリストラム学園プール幼稚園」を開園
河辺順同窓会理事長が理事長・園長に就任

1969 (昭和44)

- 10. 18 学院創立90周年・短期大学開学20周年
同窓会祝賀親睦会開催(学院地下食堂)
ミツパ会はE.M.フォス学長を囲んで座談会を開く



卒業記念ペンダント



短期大学生の銀の指輪

1970 (昭和45)

- 3. 30 E.M.フォス短期大学学長退職。英国に帰国
- 4. 1 山崎謹一郎短期大学学長に就任
- 5. 16 ミツパ会会長に藤原正子(短1)就任

1971 (昭和46)

- 1. 11 同窓会室を本館1階に設置、毎週水曜日開室

1972 (昭和47)

- 1. 東京支部会は関東支部会に改称。支部長に江上フジ(38回)就任

1974 (昭和49)

- 10. 18 学院創立95周年・短期大学開学25年「プール便り」創立95周年特集 第47号発行

1975 (昭和50)

- 9. 学院総合機関報として「プール学院報」発刊。年2回発行。同窓会関係の記事も編集、掲載されるので、従来のハガキによる「プール便り」は年1回とする。「プール学院報」は年1回会員に発送

1976 (昭和51)

- 6. 「めぐみの会」(短期大学卒業生を中心とした聖書研究会)発足
P.A.クーパー先生とE.E.ロー先生指導

1978 (昭和53)

- 5. 1 植村信久短期大学学長就任

1979 (昭和54)

- 4. 1 田中望中高校長就任
- 9. 1 学院創立100周年記念式典(フェスティバルホール)
- 10. 18 同窓会記念礼拝及び祝賀式(ホテルプラザ)
ミツパ会は「E.M.フォス先生を囲む会」を開く(ホテルプラザ)
「創立100周年記念誌」発行

1980 (昭和55)

- 5. 稲垣和子(53回、旧職)理事長に就任
- 9. 柳原光短期大学学長に就任

1982 (昭和57)

- 5. 8 同窓会後援基金(一人一万円)を56回までの卒業生会員に納付依頼
郵便料金値上げ、会費財政窮乏のため「プール学院報」送付を一時休止して、「プール便り」葉書通信を年2回にする
- 6. 12 短期大学は堺市泉ヶ丘に移転。校舎、体育館竣工
- 9. 28 盲人情報センター(ライトハウス)への奉仕活動始まる
- 10. 15 保護者・同窓生対象「聖書研究会」を松山龍ニチャプレンにより開始



稲垣和子理事長



学校法人トリストラム学園 プール幼稚園起工式(東住吉区矢田)



関東支部報「いずみ」



ミツパ会だより

西暦(年号)

事 項

1983(昭和58)

- 4. 植村良子(65回) プール幼稚園園長に就任
- 5. 14 「プール学院報」の発送を休止していたが、郵便料を学院の年1回負担により年2回発送を再開(現在に至る)

1984(昭和59)

- 4. 短期大学秘書科増設(女子2年制) 総合研究所設立
- 4. 1 矢澤信夫中高校長就任
- 5. 12 江畑芳子(45回) 理事長就任
同窓会事務室は本館北側に設置
- 9. N.H.K.制作「台風より五十年」の番組に45回生の体験インタビューが放映
- 10. 6 学院創立105周年記念式
同窓生有志が聖歌隊としてサープリスを着用し、合唱を披露。これを機に同窓会コーラス部が発足
動員学徒殉難碑除幕式 殉難碑は布、花器は糸巻を表現(以後追悼式を毎年行う)
56回生により記念誌『泰山木』刊行

1985(昭和60)

- 4. 短期大学に一般公募聴講生制度開始

1986(昭和61)

- 4. 「同窓会奨学金」は毎年「学院奨学基金」に寄付し、学院の規程に準じ貸与する方法をとり、予算に組み込んでいく

1988(昭和63)

- 4. 1 松山龍二中高校長就任
- 9. 学院中高体育館建設に伴い学院正門横に同窓会館(プレハブ2階建)を仮設
- 11. 26 P.T.A.主催パネルディスカッション「今を生きる女性たち“外からみたプール学院”」に各世代の社会で活躍している同窓生参加

1989(平成1)

- 8. 大阪大丸心齋橋店で「学徒動員の戦争展」開催。56回生が協力する1989年8月11日付「読売新聞」掲載

1990(平成2)

- 1. 20 中高体育館竣工
- 27 中高体育館竣工記念「バレーボール大会」開催。同窓会チームは在校中バレーボール部に属していた同窓生に呼びかけ、チームを作り出場。これを機に「同窓会バレーボール同好会」として活動開始
- 4. 短期大学に専攻科(英文専攻)増設
- 6. 2 学院創立110周年記念式及びファミリーパーティー(ホテルニューオータニ大阪)
記念誌「写真でみるプール学院の110年」刊行
- 9. 同窓会「テレホンカード」(清心館の飾窓デザイン)作成販売

1991(平成3)

- 2. 中高新入生の礼拝用書(聖書・聖歌集)の販売を学院から移行
- 4. 1 武藤光太短期大学学長就任
- 12. 19 プール会館(同窓会館)本館東側グラウンドの一角に宣教師館と並んで竣工。
竣工祝福式後2階ホールで立食パーティー
建設協力金と備品購入資金に充当するための募金を会員に呼びかける
グラウンドピアノがプール幼稚園から寄贈され2階ホールに設置

1992(平成4)

- 5. プール会館(同窓会館)館長に片山敬子(56回旧職)就任
担当業務委員会結成一会員管理・企画・会員活動・社会奉仕・広報・歴史資料・会館運営
「同窓会定款」「会館使用規程」を改正
「会館ご利用のしおり」作成
名簿登録、管理のためコンピュータ導入(学院器材としてリース扱い)
特製白Tシャツ M,L,LL半長袖(Pooleの赤ロゴ入り)作製、販売する
- 6. 7 殉難動員学徒追悼記念式
「大阪空襲を語る会」金野紀世子さん、四天王寺学園生徒、本校YWCA生徒、遺族、同窓生参列
毎日TV放映、6月17日付朝日新聞「語りあうページ」掲載



制服胸の刺繍



江畑芳子理事長



創立105周年記念式 サープリスを着用し聖歌隊として参加



創立110周年記念式及びファミリーパーティー(ホテルニューオータニ)



室戸台風殉難碑



動員学徒殉難碑

| 西暦(年号) | 事項 |
|-------------|--|
| 1993 (平成5) | <p>3. 社会奉仕委員会の活動として内外の使用済切手を収集し、日本キリスト教海外医療協力会(JOCS)に送る</p> <p>4. ミヅパ会はE.M.フォス先生の胸像製作及び設置の募金を始める</p> <p>6. 18 各分野で活躍している同窓生、恩師、学校関係者をゲストスピーカーとして招き講演、指導などをしていただく第1回「オープンハウスデー」を開催(活動報告をP.7~P.12に掲載)</p> <p>10. 30 第1回「香柏会」(中高旧職員のOB、OG会)開催</p> |
| 1994 (平成6) | <p>2. 25 定款改正申請に関し、大阪府教育委員会は社団法人としての定款改正は受理できないとの見解でプール学院同窓会は現定款で社団法人を続け、改正定款は「内規」扱いとする</p> <p>4. 永嶋大典短期大学学長就任</p> <p>5. 21 武市温子(短2旧職)理事長就任</p> <p>6. 1 学院創立115周年記念式</p> <p>4 短期大学開学45年記念式並びにフォス先生胸像除幕式。ミヅパ会が胸像制作募金をし、泉ヶ丘キャンパスに設置</p> <p>9. 21 室戸台風殉難60周年記念追悼礼拝(清心館)44~48回生・殉難者遺族・旧現職員ほか参列</p> <p>12. 20 学院クリスマス礼拝 高Ⅲ生徒のハレルヤコーラスに同窓生180名が参加し、合唱する。録音テープ100本制作、販売</p> |
| 1995 (平成7) | <p>1. 17 阪神淡路大震災 同窓生犠牲者2名。被災地会員に見舞状で安全確認 ライトハウスに義援金協力。社会奉仕委員会より2名が視覚被災者支援対策本部でボランティア活動</p> <p>1. 21 プール幼稚園 新園舎竣工</p> <p>6. 7 動員学徒殉難50年追悼記念式 53、54、55、56回生、殉難遺族、旧制今宮中学校関係者、「大阪空襲を語る会」メンバー他出席。 NHK TVニュース、朝日新聞社取材</p> <p>9. 1 秦山みつ中高校長就任</p> |
| 1996 (平成8) | <p>4. 2 小林哲也プール学院大学学長就任 プール学院大学 国際文化学部・短期大学部入学式</p> <p>6. 1 プール学院大学 国際文化学部 開学式</p> <p>6. ミヅパ会は会則を一部改正し、会員資格を入学時とする。海外在住の会員に「学院報」を発送する</p> <p>11. 11 1995年1.8に成立した学院創立120周年記念事業準備委員会を解散し、募金事業協力委員会・同窓会歴史と活動記録委員会・記念事業企画委員会を発足</p> |
| 1997 (平成9) | <p>5. 同窓会として募金事業協力委員会が中心となり、募金活動を開始 記念事業企画委員会は同窓生の音楽家(プロとして活動)による音楽会を企画 同窓会歴史と活動の記録委員会は同窓会年表と活動を伝える冊子を発行予定</p> <p>7. 5 大阪狭山地区在住の会員で大阪狭山グループの会合を泉ヶ丘キャンパスのチャペル室で開催し、グループで活動する方針をたてる</p> <p>10. 4 中部支部会が活動開始</p> |
| 1998 (平成10) | <p>3. 新郵便番号制度対応とWindows95対応に伴いパソコン・プリンター新機種導入</p> <p>4. 大坪栄子(74回)プール幼稚園園長に就任</p> <p>6. 20 九州支部会が活動開始</p> |
| 1999 (平成11) | <p>6. 2 学院創立120周年</p> <p>7. 10 「同窓会音楽フェスティバル」開催(フェスティバルホール) 同窓会のあゆみ「葡萄の木」刊行</p> |



大学のロゴマーク



フォス先生胸像



同窓会コーラス部



清心館の前で記念撮影(84回生)



武市温子理事長

会館 オープンハウスデー 活動報告

(同窓会館)

(1993年6月～1999年2月)

第1回

1993年6月18日(金)

会田喜代 (34回 小杉)・中村千鶴 (中60回 会田)

会田姉は大正14年卒業のアルバムや昭和初期の「校報」などを持参され、当時の学校生活について話された。中村姉は中学在学中からスピードスケートで活躍され、引退後は織物(羊毛)の研究、製作者として海外の原産地まで行かれた体験談を語られた。

第2回

1993年7月16日(金)

『能・狂言の楽しみ方と味わい方』 武市温子 (短2期 元英語科教諭)

「大蔵流」狂言を10年間習っておられ、その成果を披露された。狂言はセリフ劇であり、「呼聲」を例に出席者にも演じさせて下さった。

第3回

1993年9月17日(金)

『旧・新約聖書の土地を訪ねて』 稲田峰 (元国語科教諭)

第3回川口基督教会「聖地旅行」に参加され、16日間、ギリシャ・エジプト・イスラエル・イタリア各国の旧・新約聖書に因む土地を訪問された感動を話された。

『中高の現状と改装された勝山キャンパスについて』 松山龍二 中学校・高等学校校長
プール学院の歴史とその教育のめざすものや現状を話された。希望者は改装されたキャンパスを見学する。

第4回

1993年10月15日(金)

『環境汚染など身近な諸問題について』 角谷邦明 理科教諭

分かりやすいようにプリントや現物の「火山灰」などを参考に説明、解説された。「環境汚染を叫ぶだけではなく、地球を囲む自然のメカニズムについて知ることが必要だ」と強調された。

『E.M.フォス先生との交わりから得たもの』 仁礼美都子 (短3期 元短期大学教授)

1950(昭和25)年開学した短期大学は、外的な設備は貧弱であったが、初代学長E.M.フォス先生の熱意によって内容は誠に素晴らしいものであった。

E.M.フォス先生はノーブル(noble)な方で、ユーモア(humour)もあり、“パンクチュアル(punctual)”が口癖で、当時の「プール時間」は定刻5分前には準備万端が整っていた。しかし、それに縛られることなく、先生は学生の事情により例外も認める寛容さも持っておられた。

第5回

1993年11月19日(金)

『秘書科と女性の職業について』 永井千代子 (元短期大学秘書科科长・元短期大学副学長)

府立夕陽丘女子高等職業訓練校、大阪・神戸YWCAで指導された長い経験をもとに、短大の秘書科を今日まで立派に育て上げられた経緯、そして、女性が職業をもって社会に進出し、能力を発揮する基礎を学生に植えているのだと話された。

『プール学院とわたしの一家』 植田哲子 (41回 光安 元短期大学教授・現学院理事)

植田先生は、母：光安ミチヨ(10回 白石) 姉：堀江和江(29回 光安) 妹：片山裕子(44回 光安) 孫：松原恵美子現宗教科教諭と各世代にわたってプール学院との関わりを持ちつづけておられる。それぞれの方たちが接せられた先生のお姿や、その時代の学院の様子を語られた。

第6回

1994年2月18日(金)

『プール学院の21世紀への展望』 岩坂正雄 学院長

1992年4月 木川田主教の要請を受け、学院長に就任。21世紀に向けて「総合計画委員会」を設け、建学の理念の再確認と21世紀へのビジョンを練られている。



第16回

1995年4月21日(金)

『通じ合うよろこび — 言語リハビリ士として —』 中沢優子 (72回 小林)

言語障害に苦しむ人、嚥下機能に障害をもつ人のリハビリ士として、ボバース記念病院に勤務。どんなに重い障害を負っている人でも自分で意思決定をすることが、一番重要なことであると語られた。

第17回

1995年6月16日(金)

『社会人入学の経験を語る』 富賀見和世 (76回)

保険会社に勤務していたが、人間関係を広げたいと思い、大阪市立大学 経済学部第2部(夜間)社会人特別選抜学生として入学した。社会人入学の利点は物の見方が多様化し、若いときに比べて、記憶力が低下している代わりに理解力が深いことだと語られた。

第18回

1995年7月21日(金)

『わが人生の中間報告 — 英語・英文学研究を中心に —』 永嶋大典 短期大学学長

このような題をつけたのは、永遠の生命を信じる者としての人生の中間時で、いま生かされているという思いからだ。大学卒業後、特にサミエル ジョンソン博士(Samuel Johnson)の研究者として業績を挙げられた歩みを語られた。

第19回

1995年10月20日(金)

『高齢者介護について』 総谷英子 (なら女性フォーラム理事長・故 総谷幸蔵数学科教諭夫人)

奈良は昔からの住民と新しく居住した住民との交わりが難しい土地柄であるが、新しい生き方を探ろうという機運が生じ、「老人介護・ボランティア養成講座」や「ケア用品特報レポート」の発行など老人介護問題と取り組んでいる。老人介護・老人施設については情報を得る事が大切なのだと話された。

第20回

1995年11月17日(金)

『草木染の実演』 明見睦子 (75回 山田)

ハーブ栽培から始めてハーブ染へと進み種々の草木で染めている。草木染は手間隙がかかるが、それだけ出来上がったものには愛着が湧いてくる。セイタカアワダチソウを糸に染める実演をしながら草木染の手順、材料、媒染の薬品などの説明をされた。

第21回

1996年2月16日(金)

『パッチワーク小物の制作』 岸部歌子 (68回 小西)

短時間で作品が出来上がるよう材料を用意され、参加者は和気藹々のうちに針を持ち、時間の過ぎるのを忘れて「鍋つかみ」の制作に没頭した。参加者の年代の若い人に中年以上の方が針に糸を通してもらっている姿は微笑ましかった。

第22回

1996年3月15日(金)

『国語教師とプール学院の思い出』 吉野昭子 (元国語科教諭)

在職43年間の思い出を自らの年表をもとに、教師になった経緯、感動や失敗談、教師としての精神的革命、時代と共に変わってきた学院の空気や生徒の気質、生徒や同僚の先生から学ばれたこと、国語科の授業で特に力を入れられた事など数々のエピソードを混じえて話された。

第23回

1996年4月19日(金)

『社会奉仕に携わって』 江畑芳子 (45回 赤坂 前同窓会理事長)

祖父が大阪府で始まった生活困窮者の相談援助制度の「方面委員」を務められ、その影響で母上の松垣モト姉(26回)は戦後「方面委員」から引き継がれた「民生委員」を32年間務められ、又そのあとを江畑姉が18年間区役所とのパイプ役を果たされた。その原動力はプール女学校の教育の賜物である。娘の下園和子(71回江畑)・浦垣敏子(77回江畑)も卒業生である。

第24回

1996年6月21日(金)

『体験と経験』 松山龍二 (元中学校・高等学校校長)

体験と経験の違いは個人で終わっているものを「体験」、他の人と共有出来るものが「経験」である。韓国で生まれ育ち、母を幼くして亡くされた。南朝鮮(現韓国)9年、北朝鮮(現朝鮮人民社会主義共和国)で8年、異文化の中で生活されたことは、よい経験となったと言われた。プール学院における先生の教育方針は「明るく、落ち着いた、本当のものが見える人になるように」であった。

第25回

1996年9月20日(金)

『頭と体のリフレッシュに能(観世流)を楽しむ』 中村泰子 (65回 生田)

能舞台の説明、能「熊野」をビデオで鑑賞する。武市温子理事長の鼓と共演。参加者も謡の発声、舞の手ほどきをうけた。

『「いのちの電話」に携わって』

遠藤芳子(63回 博多) 愿山紀代子(67回 中山) 久保篤代(久保道則司祭夫人)

第26回

1996年10月18日(金)

「いのちの電話」の制度が日本に導入されてから20年になる。2年間の講座を受け審査に合格し、相談員となり、交替で24時間体制をとっている。その必要性は最近の産業化、機械化、情報化の管理社会の中であって、孤独感を味わっている人が多いこと。又、日本人の独自性である「恥の構造」が根強くあり、何時、誰でも話が出来る匿名の電話だということところにある。

第27回

1996年11月15日(金)

『しなやかに生きる』 本城布沙子 (51回 重栖)

コーラス・フランス刺繍・陶芸・俳句に打ち込み、特に俳人・中村汀女に魅せられたとのこと。また、所属している「国際ソロプチミスト大阪」で活躍されている。

第28回

1997年2月21日(金)

『ハンガー&ハーダンガー刺繍』 浅井順子 (83回)

珍しいハンガリー刺繍の独創性あふれる美しい作品を展示。色鮮やかなタペストリーやテーブルセンターは素晴らしい作品だった、参加者は、可愛いコースターを実習した。

第29回

1997年3月21日(金)

『ホスピスとターミナル・ケア』 宮嶋泰夫 (学院評議員、淀川キリスト教病院監事)

元淀川キリスト病院ホスピス委員会常任委員でホスピスの大切な働きを正しく理解するために話された。ホスピスは日本では「緩和ケア」と呼ばれ、痛みを和らげ、症状をコントロールする意味がある。ホスピスの歴史的背景や目標、現状を説明された。

『聖句を毛筆で書きましょう』

第30回

1997年4月18日(金)

佐藤望雲(弥刀キリスト教会牧師・聖句書道センター主幹 66回 佐藤和子夫君)

聖句を毛筆で書きはじめて22年になり、「書道誌」も発行され、東京、大阪、新潟、九州等各地で、「聖句書道展」を開催。今回は各人選んだ聖句のお手本を参考にし、稽古用色紙、葉で練習し、お習字が久しぶりの人が多かったが、熱心に作品を仕上げた。



社団法人 プール学院同窓会とは

社団法人プール学院同窓会は学院の中学校・高等学校・大学において「神の栄光のために」の理念のもと、共に学び、支えあった卒業生、旧教職員、現教職員によって構成されています。歴代の多くの先輩たちは、社団法人格を持つ同窓会に相応しく、その時代、時代の社会のために力強い働きをして、足跡を残してきました。

今、私たちも心に植えられたみ教えの一端を、微力であってもそれぞれの立場、家庭、社会で実践するものでありたいと願っています。そしてまた生涯の友として交わりを保ち、互いに啓発し、共に励んでいます。

現在の同窓会活動

1. 会員の把握と管理
2. 同窓会定期総会・ミツパ会(短期大学・大学卒業生と在校生の会)・支部会(関東、中部、九州、大阪狭山グループ)・香柏会(中高旧教職員の会)開催
3. 「オープンハウスデー」(同窓会員、学院関係者が講師となり、講演、講習、発表などを行う)・クリスマス祝会・ミニバザーの企画及び開催
4. 室戸台風校舎倒壊殉難者追悼会(9月21日)・動員学徒殉難者追悼会(6月7日)
5. 盲人情報センター(ライトハウス)に於ける奉仕活動・JOCSへの協力(使用済み切手、テレフォンカード、JR,私鉄カードなどの収集寄贈)
6. 「プール学院報」(学院発行)の会員への発送
7. 「プール便り」発行
8. 学院創立120周年記念事業に伴う同窓会の活動、企画の推進

上記の活動はプール学院会館(同窓会館)を拠点として、社団法人同窓会理事、評議員、代議員、学年代表代議員と各委員会組織によって遂行されています。また、同窓会は定款にうたうその設立の目的に添い、1966年開園「学校法人トリストラム学園 プール幼稚園」を運営しています。

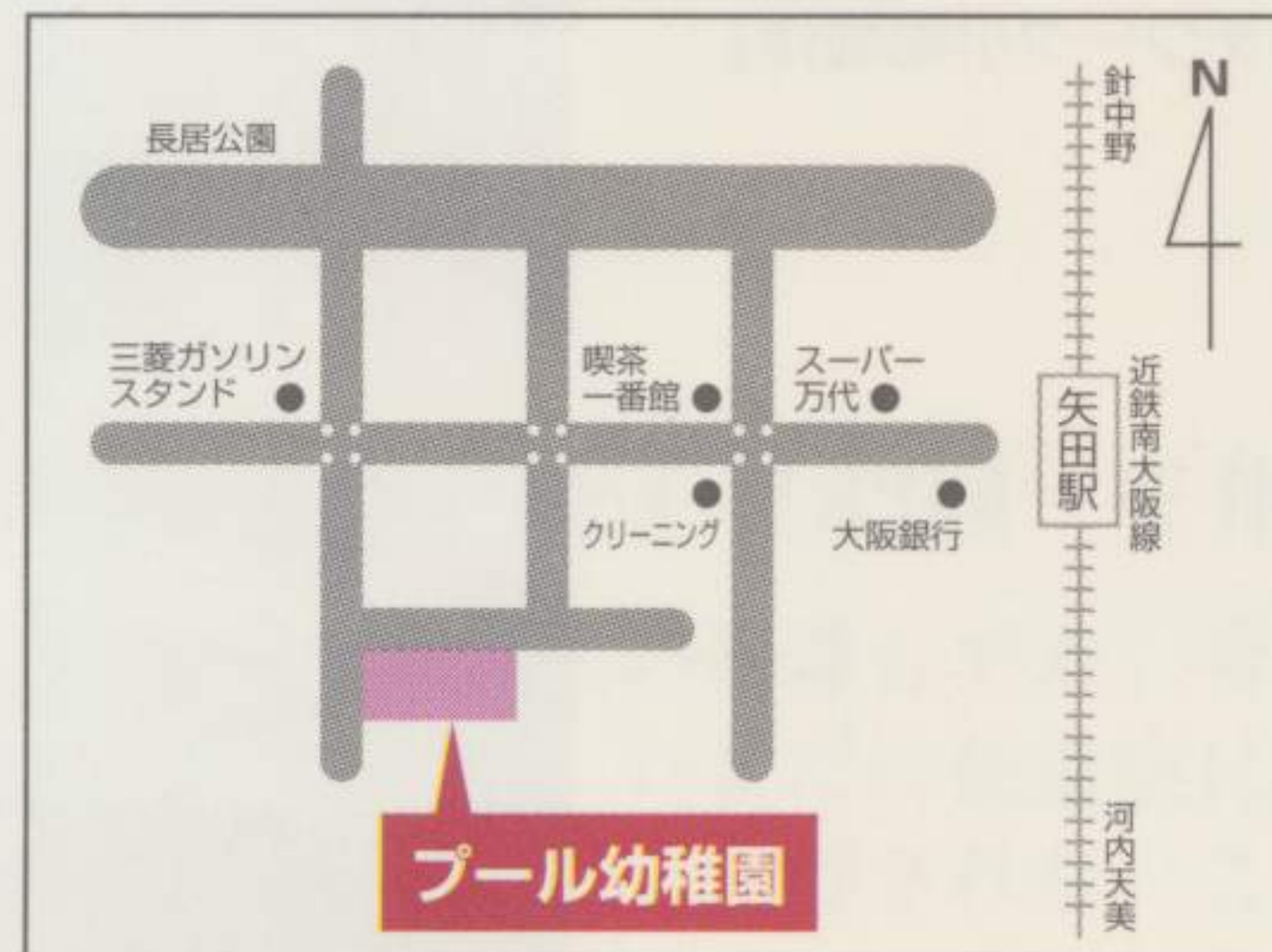
プール学院会館(同窓会館)

〒544-0033 大阪市生野区勝山北1-11-43
Tel&Fax 06-6715-0820



学校法人トリストラム学園 プール幼稚園

〒546-0023 大阪市東住吉区矢田3-2-18
Tel 06-6698-7700 Fax 06-6698-7290



第31回

1997年9月19日(金)

『**気になる地球環境**』 三宅 昇(元短期大学生生活環境学講師)

元大阪管区气象台に勤務。現在は市民部門の環境カウンセラーとして活躍されている。頭で理解していても、なかなか実行出来ないのが環境問題の難しい点である。その原因は、我々の環境破壊に対する認識の甘さと心の弱さにある。地球環境を守る事の原点は個人にあり、日常生活での注意点を挙げられた。

第32回

1997年10月17日(金)

『**楽しく詩吟をうたいましょう**』

中西寛子(63回 梶原)・塚崎保子(64回 梶原) 森本節子(66回 梶原)・
吉田伸子(68回 梶原)・小野順子(69回 梶原)

梶原五人姉妹はそろって卒業生であり、母上をはじめ全員詩吟を愛好され、その指導と普及に努められている。独吟ののびやかな朗々としたお声に感動した。「吟誦 松口月城『賀結婚』七言絶句」を指導によって吟誦した。

第33回

1997年11月21日(金)

『**ペーパークラフトでクリスマス・グッズをつくりましょう**』 光成幸子(元数学科教諭)

長年ペーパークラフトに親しみ、多くの作品を楽しんで制作され、学院クリスマス礼拝の飾りつけにも使われている。今回も可愛い天使、サンタクロース、リース、チャペル、色鮮やかなポインセチアなど、丹精こめた見事な作品が展示された。参加者は用意された材料で、好みの作品を制作した。

第34回

1998年2月20日(金)

『**別学から共学への歩み**』 小林哲也 プール学院大学学長

テーマにこだわらず、お話願った。ご自身の経歴、クリスチャンになった経緯が比較教育学への道を方向づける要素になったこと、大学生活のなかで自然な形でキリスト教の愛の精神を学ぶ環境づくりが大切であり、さらに学問的な魅力が必要である等、プール学院ならではの教育をいかに提供していくかを話された。現在、海外からの留学生を積極的に受け入れているが、今後、より広い地域からの受入れが課題となっている。留学生たちの生活面、精神面のサポートを同窓会にお願いしたいと要望された。

第35回

1998年3月20日(金)

『**布で作る小さな花**』 平野陽子(64回 迫田)

色とりどりの小さな布に綿を詰め、針金、糸、テープ、ボンドなどで、「可愛いチューリップ」を制作一人が15本ぐらいつつ作って花束にした。

第36回

1998年4月17日(金)

『**一片の布きれからの国際ボランティア**』 沖田弘子(75回 安陪)

社団法人アジア協会アジア友の会会員として、夫婦でネパールの学校建設のプロジェクトに取り組んでおられ、資金集めに近隣の人達の協力を得て、持ち寄った布きれでかばんやポーチを作り、バザーを開いておられる。インドとの国境に近いピドニー村に学校、カトマンズから5時間のチョータラに産婦人科病院を建設された。講演の最後に“チャイ”を皆で味わった。

第37回

1998年6月19日(金)

『**1996年忘れられぬ夏 —— 堺0157癒えぬ心と体の傷**』 山中優子(83回 玉井)

1996年7月堺の小学校で児童が次々と発病、山中姉のお嬢さんも発病され、三人の死者もでた。堺市市民グループ「安全な給食を求める親の会」を組織し、代表を務められている。いまだに後遺症に悩んでいる児童や、給食に不信感をぬぐいきれない児童もいる。上記の表題の冊子を発行された。この事件は一過性の問題ではなく日本の教育の問題だと痛感する。

社団法人 ぶおふ会 懇話会 学びて 入会 団 体



第38回

1998年9月18日(金)

『鶏のなべつかみをご一緒につくりましょう』 古川和子 (75回 妻鹿)

材料の布地・綿・ボタン(目玉用)などを用意して下さり、可愛いニワトリのなべつかみが出来上り、一同大喜びであった。

第39回

1998年11月20日(金)

『「六段の調べ」から「春の海」まで』 鷺見秀子 (63回 深谷)

鷺見姉は生田流の琴を長年教えられている。その琴の音は豊かでゆったりとした気分となった。最後にお琴の伴奏で童心にかえり「里の秋」を合唱した。

第40回

1999年2月19日(金)

『青い目の味噌屋の話』 A. J. Flenley (元英語科教諭)

1986年から1990年まで在職され、その後夫人の実家の味噌問屋を継がれた。日本の伝統的な味を作る仕事に携わるために勉強された成果を発表して下さい、夫人お手製のケーキ(味噌風味)を御馳走になった。



平井万佐治氏

内海伸晃先生



仁礼美都子先生

永井千代子先生



「パッチワーク小物制作」



田所菊子先生

植田哲子先生

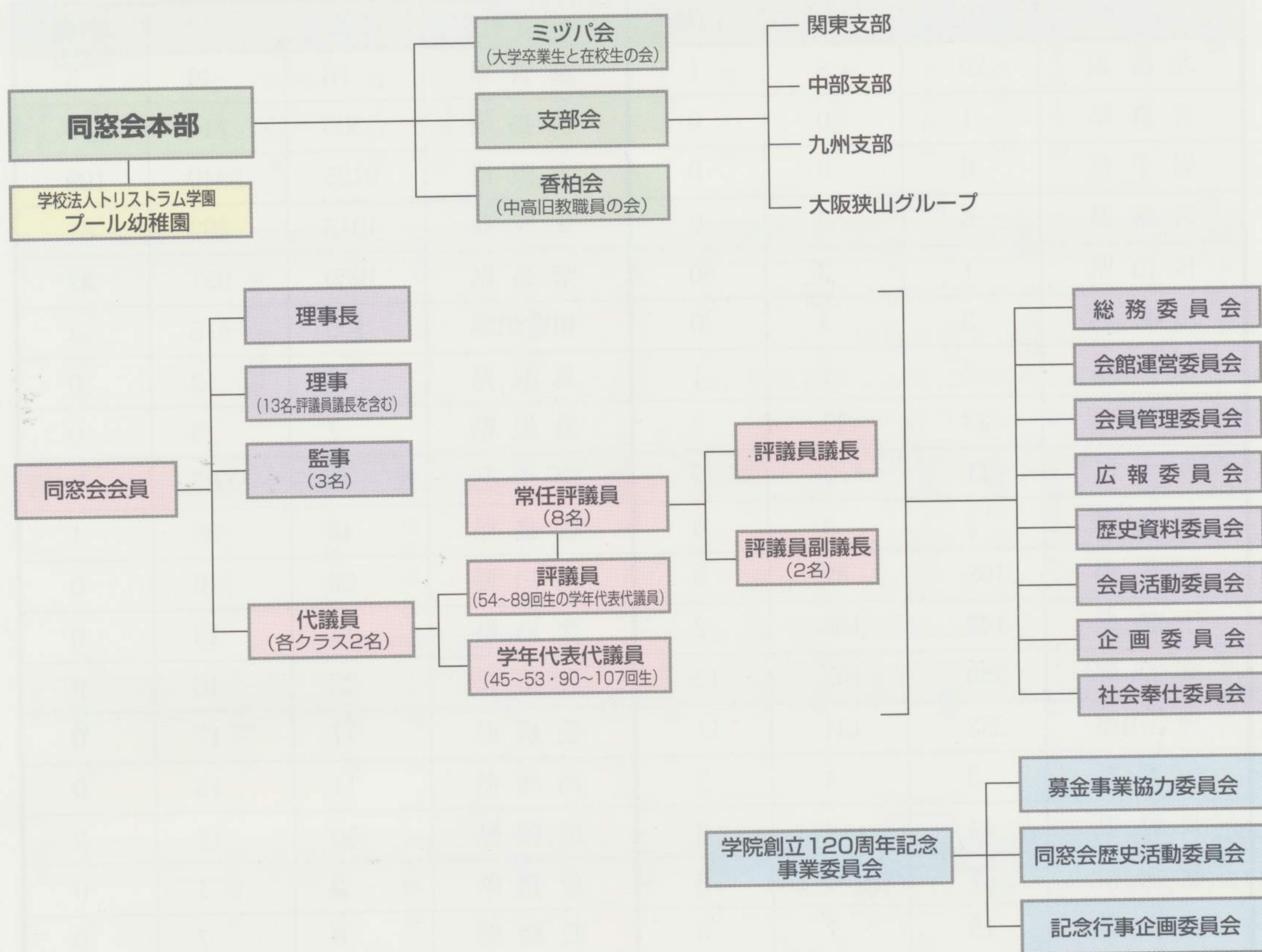


「大正琴演奏」



A.J.フレンリー先生

社団法人 プール学院同窓会のしくみ



委員会の担当業務

| | |
|---------|--|
| 総務委員会 | 総会の運営、議事録の作成と管理、会計業務 |
| 会館運営委員会 | プール学院会館（同窓会館）の管理と運営、整備、備品購入などの業務 |
| 会員管理委員会 | 会員の把握、名簿管理、OA入力と点検、諸通知発送業務 |
| 広報委員会 | 「プール学院報」掲載の原稿およびPR用文書の作成 |
| 歴史資料委員会 | 同窓会の歩みを資料などから整理し、記録する業務 |
| 会員活動委員会 | 企画委員会と共同し、その業務の実行を援助遂行する |
| 企画委員会 | 定款に定める会員親睦と知識教養の向上を図る業務の計画立案 (オープンハウスデー、クリスマス祝会、バザー、総会日の親睦茶話会等) |
| 社会奉仕委員会 | 定款に定める地域と社会への奉仕を目的とする業務の検討と実行 (盲人情報センター（ライトハウス）における奉仕活動・JOCS事業への協力) |

上記の各委員会は理事及び評議員4名～10名によって構成され、委員長は理事が担当し、業務内容を理事会に於いて検討し、承認を得て活動している。

同窓会会員

1998年12月現在

※中・高・短大・大学短期大学部の卒業生及び旧教職員で住所の判明している会員

都道府県別在住者

| 府県名 | 中高 | 大学 | 旧職 | 府県名 | 中高 | 大学 | 旧職 |
|----------------|-----|-----|----|------|-------|------|-----|
| 北海道 | 29 | 8 | 1 | 滋賀県 | 76 | 46 | 5 |
| 青森県 | 1 | 0 | 0 | 京都府 | 305 | 114 | 9 |
| 岩手県 | 0 | 0 | 0 | 大阪府 | 9125 | 5840 | 199 |
| 宮城県 | 6 | 3 | 0 | 兵庫県 | 1013 | 392 | 61 |
| 秋田県 | 1 | 3 | 0 | 奈良県 | 1950 | 951 | 32 |
| 山形県 | 3 | 1 | 0 | 和歌山県 | 100 | 615 | 4 |
| 福島県 | 7 | 1 | 1 | 鳥取県 | 19 | 2 | 0 |
| 茨城県 | 23 | 11 | 2 | 島根県 | 7 | 5 | 0 |
| 栃木県 | 11 | 7 | 0 | 岡山県 | 40 | 22 | 2 |
| 群馬県 | 3 | 4 | 0 | 広島県 | 40 | 28 | 1 |
| 埼玉県 | 109 | 49 | 5 | 山口県 | 20 | 10 | 0 |
| 千葉県 | 143 | 108 | 2 | 徳島県 | 13 | 13 | 0 |
| 東京都 | 350 | 163 | 12 | 香川県 | 22 | 16 | 0 |
| 神奈川県 | 232 | 134 | 11 | 愛媛県 | 17 | 17 | 0 |
| 山梨県 | 3 | 4 | 2 | 高知県 | 11 | 13 | 0 |
| 長野県 | 14 | 4 | 0 | 福岡県 | 50 | 18 | 2 |
| 新潟県 | 7 | 5 | 0 | 佐賀県 | 2 | 1 | 0 |
| 富山県 | 15 | 7 | 0 | 長崎県 | 6 | 7 | 0 |
| 石川県 | 13 | 5 | 0 | 熊本県 | 8 | 3 | 0 |
| 福井県 | 15 | 6 | 0 | 大分県 | 10 | 2 | 3 |
| 岐阜県 | 29 | 8 | 1 | 宮崎県 | 6 | 3 | 1 |
| 静岡県 | 27 | 19 | 2 | 鹿児島県 | 6 | 7 | 0 |
| 愛知県 | 109 | 46 | 6 | 沖縄県 | 2 | 1 | 0 |
| 三重県 | 110 | 54 | 3 | 小計 | 14108 | 8776 | 367 |
| 他に(外国在住者 103名) | | | | 合計 | 23354 | | |

海外国別在住者

| | | | | | |
|---------|----|--------|---|----------|---|
| アメリカ合衆国 | 43 | フランス | 4 | ポルトガル | 1 |
| カナダ | 8 | ブラジル | 4 | スイス | 1 |
| オーストラリア | 5 | イタリア | 3 | ニュージーランド | 1 |
| シンガポール | 4 | マレーシア | 2 | タイ | 1 |
| ドイツ | 4 | 中国 | 2 | メキシコ | 1 |
| イギリス | 4 | デンマーク | 2 | イスラエル | 1 |
| 香港 | 4 | インドネシア | 2 | 南アフリカ | 1 |
| 台湾 | 4 | スペイン | 1 | 韓国 | 1 |

お願い 住所・姓名変更は必ず同窓会事務室までご連絡ください。

プール学院校歌

小泉 秀 作歌
永井 幸次 作曲

♩=108

mf

1. さそくらの はななゆ なでー さしほり くおすよ きほこそ しぞやほ まらかひ ーののにも やふみな

2. たの のしべ のくの らのくの はななゆ なでー さしほり くおすよ きほこそ しぞやほ まらかひ ーののにも やふみな

3. のしべ のくの らのくの はななゆ なでー さしほり くおすよ きほこそ しぞやほ まらかひ ーののにも やふみな

4. のしべ のくの らのくの はななゆ なでー さしほり くおすよ きほこそ しぞやほ まらかひ ーののにも やふみな

cresc.

まかどに とくりは のあいの かるは なるそる にくふの うつくこ ゑつれの らまたは れしけな てきのも かぞさい

みみをぶ のににれ みいなこ むーこ ねきらろ をよへの そわわと のががも まむむと まねねし のににて わととみ

cresc.

かははく なのの に でのい のは こちちな ののの かい か なづぶを のみみあ そああげ のりりよ

mf

むねにいのちのいづみありむ

f

ねにいのちのいづみあり

rit.

プール学院校歌

小泉 秀 作歌

- 一、桜花咲く敷島の 大和の国に植ゑられて
神の御旨をそのまゝの わが撫子の花園
- 二、園の撫子、大空の 深くあかるくつゝましき
望みに生きよ、わが胸に 永久の生命の泉あり
- 三、正しく直くすこやかに みどり色そふ呉竹の
操にならへ、わが胸に 永久の生命の泉あり
- 四、野辺の百合のよそほひも 浪速の春の木の花も
いづれ心の友として 皇国の花の香をあげよ
胸に生命の泉あり
胸に生命の泉あり

※1932(昭和7)年に作曲・作歌された校歌は歌詞の内容が時代にそぐわないとして、現在はメロディのみ演奏されている。

●表紙

題字：藤原 英子 (77回)

絵：福島 道子 (78回)

●編集後記

学院創立120周年記念事業のひとつとして1996年11月に「同窓会歴史活動委員会」が発足しました。母校を愛し、常に母校のために協力を惜しまなかった先輩諸姉の働きを次の世代へと引き継いでいくために、同窓会のあゆみと現在の活動を小冊子にまとめる運びとなりました。表紙絵、題字を始め貴重な資料や写真を提供下さった同窓生のご協力を深く感謝いたしております。特に多くの示唆を戴きました学院の現旧教職員の先生方に心より御礼申し上げます。

●学院創立120周年記念事業 同窓会歴史と活動の記録編集委員会

委員長： 林 暁美 (63回 短5)

委員： 仲 トヨ (56回)

前村 千栄 (65回)

大八木秀子 (70回 短12)

内田佐知子 (74回)

堀 礼子 (75回)

吉野 昭子 (旧職)

武市 温子 (理事長 短2 旧職)

片山 敬子 (館長 56回 旧職)

葡萄の木

社団法人 プール学院同窓会のあゆみ

1999年7月10日 発行

発行 社団法人 プール学院同窓会

〒544-0033 大阪市生野区勝山北1丁目11-43

☎ 06(6715)0820

印刷 大原印刷株式会社

〒537-0025 大阪市東成区中道3-8-17

☎ 06(6981)3138(代)

